

短期大学学生のスラックス作図に関する調査 (第1報)

腹囲から腰囲までの考察

盛田良子・加藤恵子

Investigation Concerning the Drawing Figures of Slacks by College Girls (Part 1)

Cosideration of the West to the Hip

by

R. MORITA and K. KATO

緒 言

スラックスを構成するには腹囲(以下Wと略す), 腰囲(以下Hと略す)のゆるみ分量, さらに股上, 脇丈の採寸および作図法は, その機能的条件にかない, 美的感覚も損なわれないような形態に仕立てられることが望ましい. また補正を行なうということは, 洋裁において一般的概念であるように感じられているが, 既製品の発達した現在の生活実状では補正時間の短縮ということは, 大切な条件であると考え.

そこで現在使用されているスラックス作図例を基本にして, 補正箇所を減少する目的でスラックス構成に関してWからHまでの補正箇所の増減の多かった部位を取り上げ調査対象とした.

調 査 対 象

本学短期大学一年生82名(18才から19才)を調査対象としたが, 被験者の出身地は主として名古屋周辺である.(144名の中から作図の正確に書けた82名を選んだ).

調 査 期 間

昭和38年10月15日から11月20日迄に製作した, スラックスに基づき調査を行なった.

調 査 方 法

Fig. 1に示すスラックス作図法が, この調査で使用した作図である.

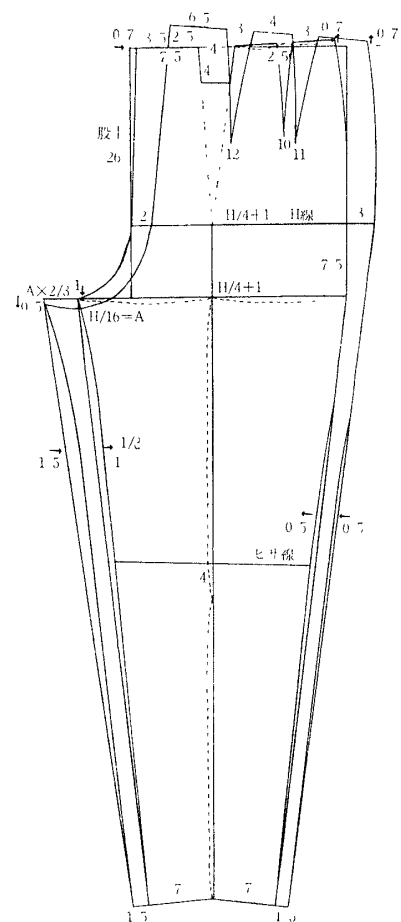


Fig. 1. スラックス作図法
W=60, H=90,
股上=26, スラックス丈=91

この図を基本に各自採寸を行ない，裁断，仮縫，補正を行なった。

被験者は補正結果を型紙に写し，Fig. 2の提出ノートに補正結果の寸法を朱線で記入し提出を求めた。なお，提出ノートの項目以外に被験者の体重，身長，W，Hの各寸法を記入させた。そのうちW線からH線間の補正箇所を取り上げた。

名称		評価	認印	作図 1/5 縮尺	仮縫者名
スタイル画		批評			
		感想			
布地名称		用尺			
布地サンプル	着手年月日	年	月	日	
	完成年月日	年	月	日	
	時間数	時間			

Fig. 2. 提出ノート

調査結果

Table 1 に示されているように，W線における前脇部位は 82 名の中 63 名(77%)の者に，補正結果で増減がなく，19名で(23%)の者に増減があった。後脇部位，後中心部位ともに，54名(66%)の者に補正結果で増減がなく，28名(35%)の者に増減があった。前中心部位におい

部位	項目 補正結果別	増減別人数	増減率
		人	%
ウエスト(W)線	前脇部位	増減の無い者	63 77
		増減の有る者	19 23
	後脇部位	増減の無い者	54 66
		増減の有る者	28 34
	前中心部位	増減の無い者	46 56
		増減の有る者	36 44
後中心部位	増減の無い者	53 65	
	増減の有る者	29 35	

Table 1. ウエスト線の補正結果別による人数

部位	項目 補正結果別	増減別人数	増減率	補よた 正寸法 結果減 にし	
		人	%	cm	
ウエスト線	前脇部位	減少した者	8	10	0.89
		増減のない者	63	77	0
		増加した者	11	13	0.89
	後脇部位	減少した者	11	13	1.02
		増減のない者	54	66	0
		増加した者	17	21	1.0
前中心部位	減少した者	8	10	0.84	
	増減のない者	46	56	0	
	増加した者	28	34	0.88	
後中心部位	減少した者	21	25	1.02	
	増減のない者	53	65	0	
	増加した者	8	10	0.68	

Table 2. ウエスト線の補正結果別による人数・寸法の比較

て、46名(56%)の者に補正結果で増減がなく、36名(44%)の者に増減があった。それらのうち補正結果で増加した者を取り上げると全体で34%を示している。反対に後中心部位において、補正結果の増減で、減少した者が多く見られる。

Table 3 に現われた中で中ヒップライン（以下中H・Lと略す。Wから13cm下）の結果において、前脇、後脇部位で82名の中、29名(35%)の者に補正の増減がなく、増減のあった者は、補正結果中最も多く、53名(65%)にみられる。

それらのうち、Table 4 で示すように、とくに補正結果の増減で増加した者が、全体の51%で他の部位に比べて、著しく多いことが認められる。中H・Lの前中心部位においては、W線の前中心部位の増減のあるものと、ないものと同じ数を示している。そのうち中H・Lにおいては減少した者より増加した者がW・Lよりいく分か多いことが認められる。中H・Lの後中心部位においては、56名(68%)の者に補正の増減がなく、26名(32%)の者に増減が認められる。W線の後中心部位とほぼ同じで、差は認められない。

体表面積においても、補正別による差は認められなかった。

補正結果別によるWとHの差の平均値を見たところ、前脇、後脇部位、前中心、後中心部位で増加した者29.8cm、減少した者28.9cm、増減のない者28.6cmでその差はわずかに見られるが、補正結果別による差は認められない。

部位	項目		増減別人数	増減率
	補正結果別			
中ヒップ・ライン	前脇部位	増減の無い者	29	35
		増減の有る者	53	65
	後脇部位	増減の無い者	29	35
		増減の有る者	53	65
	前中心部位	増減の無い者	46	56
		増減の有る者	36	44
	後中心部位	増減の無い者	56	68
		増減の有る者	26	32

Table 3. 中ヒップ・ラインの補正結果別による人数

部位	項目		増減別人数	増減率	補よた寸正結果に増減に \bar{x}	体表面積 \bar{x}	腹の囲差と腰囲 \bar{x}
	補正結果別						
中ヒップ・ライン(中H・L)	前脇部位	減少した者	11	13	0.45	1.459	29.0
		増減のない者	29	35	0	1.478	29.0
		増加した者	42	51	0.72	1.487	29.1
	後脇部位	減少した者	11	13	0.63	1.474	28.4
		増減のない者	29	35	0	1.481	28.8
		増加した者	42	51	0.72	1.480	29.2
	前中心部位	減少した者	3	4	0.33	1.433	29.5
		増減のない者	46	56	0	1.477	28.1
		増加した者	33	40	0.48	1.398	30.9
	後中心部位	減少した者	7	9	0.53	1.429	28.3
		増減のない者	56	68	0	1.479	28.7
		増加した者	19	23	0.99	1.503	29.8

Table 4. 中H・Lの補正結果別による人数・寸法・体表面積・腹囲と腰囲の差の比較

考 察

本学学生の学習時間に製作したスラックスの作図を基本にして調査した結果、スラックスを構成する場合、まずW、H、肢上、スラックス丈をテープ・メジャーによって作図を行なう。それを基本に製作し補正を行なった結果、補正の現われ方にほぼ一致した欠点が見られた。

1. W線の脇の部位では、この調査で使用した作図法が妥当であることが認められた。
2. W線の前中心部位の補正結果で、増加した者が34%であることは、腹部の厚み(最頂点)がとくに多い者に現われた結果と思われる。
3. W線の後中心部位においては、補正結果で減少した者が25%であることは日本人特有の体型としてHが下り、彎曲型になっている者が多い結果と思われる。
4. 中H・Lの前脇、後脇部位ともに65%の者が、補正結果で増減があり、とくに増加した者が全体の51%を示している。これは、W線からH線までの間の脇カーブが従来のカーブ尺を使用した場合、人体の脇カーブとの間に無理があると認められる。人体の脇カーブを見た場合に、W線から腸骨間の部位で急に出張っている人が多いために生じた結果だと思う。
5. WとHの差は、補正結果に影響していない。
6. 中H・Lの前脇、後脇部位において、WとHの相関関係を見ると、負の相関を示す者が補正結果で増加した者に見られたが、他の部位では、認められなかった。

以上は補正結果別による考察であったが、さらに、体型を細かく知る必要があることを認めた。

最後に、この調査に当たって、終始ご懇切な指導をいただいた京都女子大学黒川綾子先生に厚くお礼を申し上げますとともに、ご協力下さった、本学早坂美代子先生ならびに学生の方々に深く感謝する。